

故山川治雄氏の一周忌供養と卯月山下見山行

◇実施日 8月25日(木) 晴

◇参加者 沖崎吉信、中前偉、湯川一郎、濱野兼吉、畑林清子、

大江加予子・徳子、生熊千満子、西克、高階鈴子・美根子、梶野照雄、志岐敬、山本直子、榊本真仁

15名

早いもので、山川治雄さんが事故死してから一年になる。あの日の第一報は今でも耳から離れることは無い。



事故現場に登る

一周忌供養の供養

行仙や持経、平治へ行っても、ここは山川さんが直してくれた、それは山川さんが運んでくれた、と思います。また、あそこはこうし

たほうがいい、今度はここをやり替えよう、と宿題も残してくれて、山川さんが頭から消え去ることは無い。

5年間大変お世話になった。いつも一生懸命で山彦に多大な貢献を頂いた存在感のある方だった。

今日、仲間15名で事故現場へ赴き、手厚くご冥福をお祈りし、中前君からも丁寧で有難いお経を唱えて頂いた。

5名が玉置神社経由で駐車場へ、残りの10名は玉置辻に戻り車で駐車場へ向かって合流し、その後展望台に移動して昼食とした。



古道を歩く

林道合流にケルン

高滝辻の石柱

卯月山は王走り山の別名で、折立の集落から中秋の名月がこの山の山頂に望まれることからそう呼ばれている。来年の干支の山でもある。先日湯川君がルートの確認に行つて「林道が伸びて古道が分断されている。間伐材の放置で通過困難な箇所もある」と報告を頂いた。

干支の山として新春登山を考えていたので、その下見も兼ねて午後

の予定に組み入れた。

通常は村道横の展望台を過ぎて花折塚の手前から入山するのだが、どんなふうにも林道が交差するのか戦々恐々の気持ちで展望台先から入山した。

道は残っているが、歩く人もいないようでかなりの荒れようだが、7〜8分進むと林道に出た。林道は急勾配で村道の方に伸びているが、もう使われていないようで大きな岩が全面に落ちていた。林道が大きくカーブした所で林道を離れ、再び山腹をトラバースしながら下っていく。

この古道は現在村道がある山腹をトラバースし、高滝辻を経て高滝又は折立へ続く玉置神社の参詣道になっていて、数百年の歴史がある古道だ。



卯月山山頂

本日の参加者

林道を登る

荒れた狭い道を15分ほど進むと立派な林道に出会う。逆方向から来るとこの古道への取り付きが全く判らないように思えるので、ケ

ルンを積んでおいた。広い林道を下っていくとすぐに高滝辻に着く。12年ぶりである。高滝辻には道標と石柱があり、左おりたち、右たかたきと記されている。林道は折立方向に延びている。

いよいよ卯月山に登りだす。標高差は160mほど、年のせい、昨夜の酒のせい、急な登りは体にこたえる。30分弱で卯月山の山頂に着いた。事前に調べてきたが、平成22年12月12日、山彦納めの山で17名が登って以来になる。山頂の標識も12年前の物が大半だ。山頂に20分ほど滞在し下山開始。下る途中で道を間違え、皆さんに迷惑をかけてしまった。



村道に着く

駐車地に帰着

今日のルート

高滝辻からは広い林道を経由して村道まで戻り、200m程離れた駐車地へ帰った。

久しぶりの卯月山だったが、来年は干支の山として、かなりの数の登山者があることが予想されるので、わかりにくい場所に道標の設置が必要だろう。

(記：沖崎)

行動タイム

玉置辻 09:30 → 10:00 事故現場 10:15 → 11:35 展望台 → 12:03
村道駐車地 → 12:41 高滝辻 → 13:13 卯月山 13:28 → 13:55 高滝辻
→ 14:43 村道 → 14:50 村道駐車地